1 自殺者数の推移

我が国の自殺者数は、警察庁の自殺統計資料（以下「自殺統計」という。）によれば（第１－１図）、平成10年以降、12年連続して３万人を超える状態が続いている。昭和58年及び61年に２万５千人を超えたものの、平成３年には２万1,084人まで減少し、その後２万人台前半で推移していたが、10年は、９年の２万4,391人から8,472人（34.7％）増加して３万2,863人となり、その後、15年には統計を取り始めた昭和53年以降で最多の３万4,427人となっている。21年は３万2,845人で前年に比べ596人（1.8％）増加した。

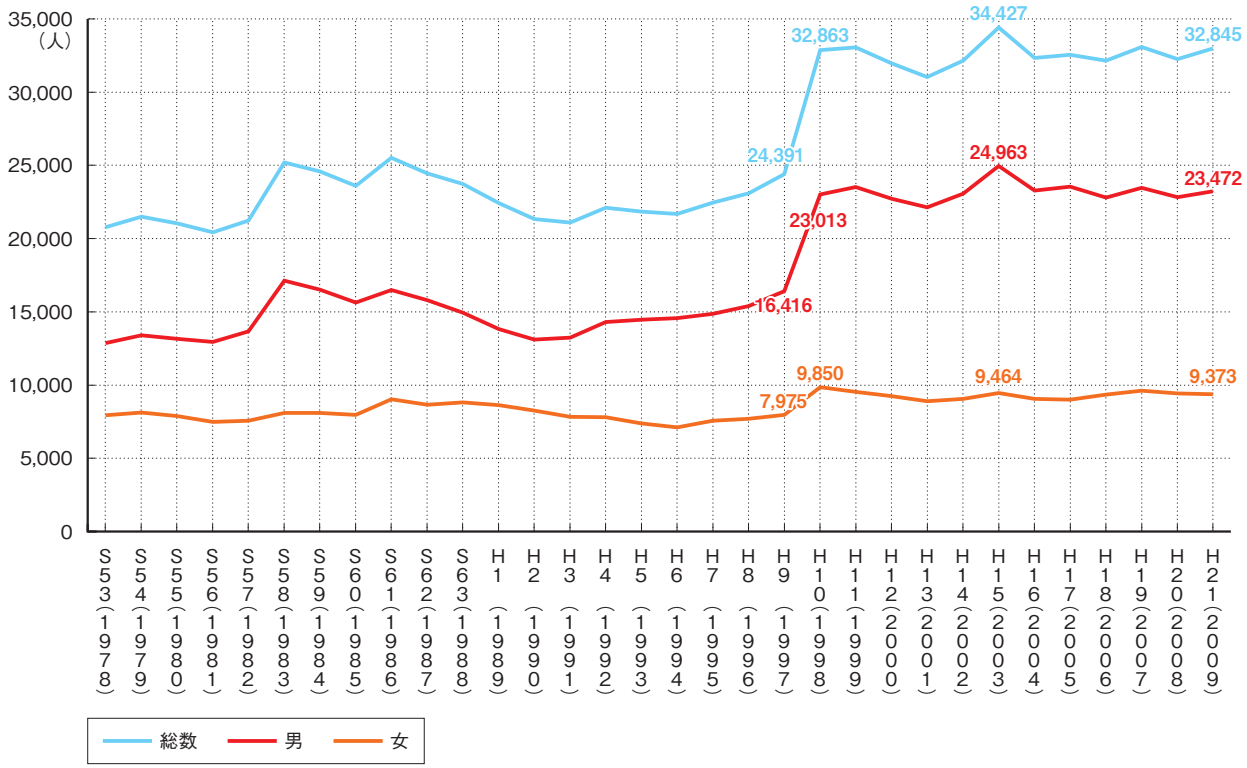
男女別にみると、男性については、昭和60年前後に58年の１万7,116人をピークとした後、平成10年の２万3,013人以降は２万人を超える状態が続いており、15年にはこれまでで最多の２万4,963人、21年は２万3,472人で前年に比べ641人（2.8％）増加している。女性については、昭和61年の9,027人を除き、８千人前後で推移し、平成10年にはこれまでで最多の9,850人となり、その後は13年を除いて９千人台で推移しており、21年は9,373人で前年に比べ45人（0.5％）減少している。

自殺者数の長期的な推移をみると、厚生労働省の人口動態統計（以下「人口動態統計」という。）によれば（第１－２図）、第二次世界大戦後は、昭和30年前後（29年～35年）に山を形成しており、33年の２万3,641人をピークとする最初の山を形成した後、40年代前半の高度成長期には１万４千人台前半まで減少し、その後２万人前後で推移している。次いで、61年の２万5,667人をピークとする二つ目の山を形成し、平成10年に３万1,755人となった以降は、11年連続して３万人前後の状態が続いており、20年は３万229人で前年に比べ598人（1.9％）減少している。

男女別にみると、男性については、昭和30年前後に33年の１万3,895人をピークとする山、60年前後に58年の１万6,876人をピークとする山、平成10年以降の山と三つの山を形成している。平成10年には２万2,349人となり、その後、11年連続して２万人を超える状態が続いている。15年にはこれまでで最多の２万3,396人となり、20年は２万1,546人で前年に比べ461人（2.1％）減少している。女性については、昭和30年前後に33年の9,746人をピークとする山を形成しているものの、その後は、61年の9,168人を除き、６千人台前半から８千人台の小幅な変動で推移した。平成10年は9,406人と大幅に増加したが、12年以降は、８千人台で推移しており、20年は8,683人で前年に比べ137人（1.6％）減少している。

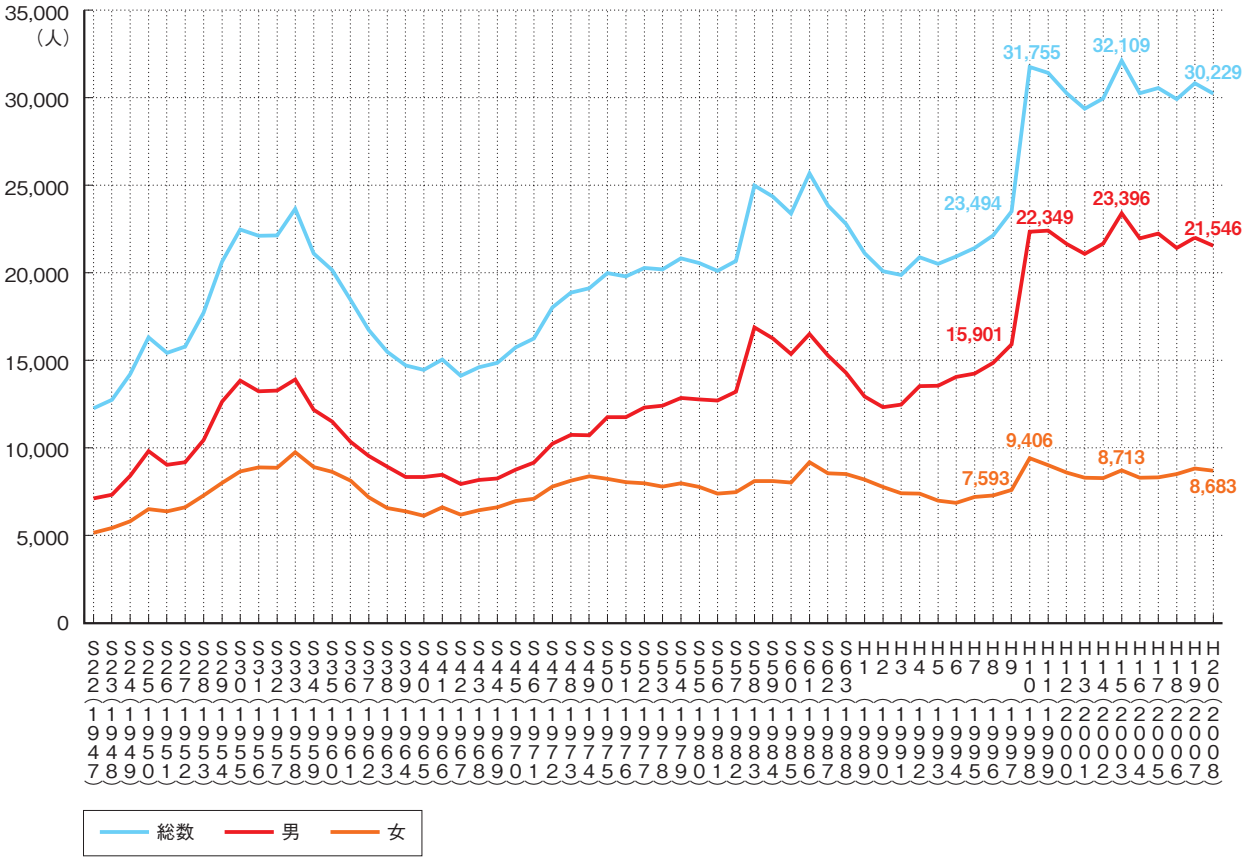
なお、調査対象範囲、計上時点の違いなどにより自殺者数の違いはある（詳細は６ページ「参考」を参照）が、人口動態統計の増減の傾向は自殺統計に一致している。

第1-1図　自殺者数の推移（自殺統計）



資料：警察庁「自殺統計」より内閣府作成

第1-2図　自殺者数の長期的推移（人口動態統計）



資料：厚生労働省「人口動態統計」